

## 女性研究者研究活動支援事業（一般型）

（実施期間：平成 25～27 年度）

実施機関：電気通信大学（総括責任者：福田 喬）

## プロジェクトの概要

## (1)支援室の体制と具体的な活動内容

新たに「女性研究者支援室」を設置し、室長1名の他、研究推進員1名、相談員1名を配置し、女性研究者の研究能力の向上や、ライフイベント時の研究中断を避けるための研究環境の改善に取り組むとともに、在宅勤務制度の導入を検討する。また、学生向けの研究紹介イベントを実施し、連携機関と共同セミナーを開催して、実績を評価する。

## (2)研究を支援する者の配置計画

優れた研究を行っている女性研究者の研究支援を目的とした研究支援者を2名、出産・育児及び老親介護など、ライフイベントや介護に悩む者に対する研究支援員4名、合計で期間内に6名程度の研究支援員を配置する。なお、平成25年度の前半には、女性研究者の学問分野ごとに、研究支援員の候補者リストを作成する。

## (1) 評価結果

| 総合評価 | 目標達成度 | 取組 | 取組の成果 | 実施体制 | 実施期間終了後の取組の継続性・発展性 |
|------|-------|----|-------|------|--------------------|
| A    | a     | a  | a     | a    | a                  |

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

女性研究者が特に少ない理工学系分野の単科大学でありながら、所期の目標を上方修正し、学長のリーダーシップの下、意識改革を確実に進め、教員の女性限定公募やインセンティブ経費付与といったポジティブ・アクションを実施することにより、所期の目標を達成し、女性研究者を積極的に増加させたことは、評価できる。実施期間終了後は、さらに高い目標を掲げており、その着実な達成を期待する。

- ・**目標達成度**：職階別の女性教員在籍者数の目標値を見直し、上方修正するとともに、女性教授在籍者数及び女性准教授在籍者数に係る目標を達成したことは、評価できる。一方、女性助教在籍者数の目標は未達であったが、学内の意識改革を進め、最終年度の実施ではあったものの、テニュアトラック助教の女性限定公募を実施し、女性助教の採用を進めたことは評価できる。
- ・**取組**：女性研究者のニーズに基づいた研究支援員の配置と意識啓発セミナーの充実を両輪とし、自主経費も充当し、機関全体として取組を推進したことは評価できる。ポスドク研究員の公募における復帰支援枠の創設、大学院（博士）後期課程の女子学生への経済的支援といった特色ある取組や、テニュアトラック助教の女性限定公募といったポジティブ・アクションの取組も評価できる。

- **取組の成果：**意識改革を着実に進め、テニユアトラック助教の女性限定公募を実施し、女性教員の採用を実現したことは、評価できる。さらに、研究支援員の配置等による両立支援や、意識啓発セミナーの開催等による男女共同参画意識の醸成が、女性研究者の科学研究費補助金採択率の大幅な向上や大型研究資金の獲得、上位職（教授、准教授）や管理職への登用の増といった成果に繋がっており評価できる。
- **実施体制：**学長のリーダーシップの下、副学長2名が室長と、副室長を務める「女性研究者支援室」を創設し、特任准教授（研究推進員）と、事務補佐員を配置するとともに、機関の事務局職員や部局教員の協力により、機関全体として女性研究者の活躍促進に取り組む実施体制を構築したことは、評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性：**実施期間終了後も、これまでの実施体制を維持し、事業実施のための十分な自主経費を確保し、成果の上がった取組の継続を図っており、また、研究支援員配置の支援対象を男性教員へも拡充する計画を策定し、意欲的に取組の発展を図っていることは、評価できる。